JAPONSKÁ KOMORA
průmyslu a obchodu v České republice
JAPANESE CHAMBER
of Commerce and Industry in the Czech Republic
チェコ日本商工会

ブルノ国際機械見本市における産業連盟コンファレンス

【日時】2017 年 10 月 9 日　13 時～

【場所】ブルノ国際展示場

【出席】事務局　小澤 真紀子

【プログラム及び報告】

1. ブルノ国際展示場 General Director イジー・クルス氏　挨拶

2.「今年の産業人」「産業と地域発展の貢献者」表彰式

3. 産業連盟会長　ヤロスラフ・ハナーク氏　スピーチ

現在のチェコは失業者が激減しているが、この低失業率である状況は決して好ましいものではない。国内の企業では合計 20 万人もの労働者が不足している。この問題は、必ず来年以降の経済にブレーキをかけるだろう。ロボット化や自動化が謳われる中、これらの対策は将来必ず労働者の代わりとなると期待できるが、今すぐに導入する事は困難である事は事実である。「今」労働者が不足しているこの現状をどうにかする為の対策が急がれる。そのためには外国人労働者の受け入れが最も早い対策だ。ベラルーシやモンゴル、カザフスタンなどの第 3 国からの労働者の受け入れ態勢を整える事を政府に要求する。ウクライナ人の受け入れプロジェクトがあったが、リクルートを始めてから実際に企業へ入社するまでに 156 日もの日数を要する。これについても政府は改善すべきだ。一方、囚人雇用システムに関しては、労働力不足にとって有効な対策であった。法務省に感謝したい。
教育システムの改革は必須である。数学を高等学校の卒業試験に加えた事や、高等学校の入学試験を導入した事は素晴らしい。
デジタル化については、チェコは非常に遅れている。エストニアでは 25 年も前に個人識別番号をデジタル化して登録している。チェコはデジタル化の分野において、もっと力を入れるべきだ。
税に関しては、公平な課税が可能になった EET（電子売上登録システム）の導入は賛美したい。
運輸に関しては、高速鉄道の導入と政府は言うが、嘘はつかないでほしい。高速道路建設でさえ膨大な時間がかかっているのに、高速鉄道の建設にはどのくらいの時間が実際に有すると考えているのか。

4. チェコ共和国首相　ソボトカ氏　スピーチ

－チェコは技術大学と連携し、インダストリー4.0 に取り組んでいる。デジタル化においても、導入して行く準備を進めている。
－チェコは 1 年以上 EU 内で最低の失業率を保持している。
－チェコの財政については、EU からの補助金のおかげで予算が余っている。
－チェコは世界で 6 番目に安全な国である。
－女性の早期復職のため、保育園を拡張するよう計画している。
－今後は付加価値の高いビジネスに投資できるよう、企業支援していく。
－各国では排気ガス問題が重視されているが、これについてはチェコにおいても検討していかねばならない。
－2025 年には Dukovany の原子力発電所の増設をすべきだ。
－高速インターネットやデジタル化に関する開発も進めていきたい。
－主に研究開発分野における中小企業のためのインセンティブを導入していく。
－低賃金を生む労働ではなく、もっと高い付加価値を生む製品を生産すべきである。
－チェコは早急にユーロを導入すべきである。

5. ディスカッション

《質問者》

産業連盟副会長　ラファイ氏：
チェコの産業がロボット化するまで 5～7 年はかかると予測する。現時点での労働力不足を解消するには、フレキシブルな人材が必要となるため、まずは各企業でどのような職種が何人不足しているのかを、政府に分析して欲しい。

スビニェック・フロリーク氏（Linea 社社長）：
今日の見本市で自分の従業員達が、出展企業にロボット化に関する相談をしたが、実現するまでに 2 年も待たされると聞いた。これでは、現状の解決にならない。

《回答》

ハブリーチェック産業貿易大臣：
高等学校との協力により、的確な人材育成に努めている。昨年発足したウクライナ・プロジェクトにより、ウクライナ人労働者の受け入れを簡素化できるようにした。しかし、リヴィウやキエフの領事館の人で不足により処理能力が低く、領事館の人員を増員させるためには政治的な支援が必要な状況である。

ソボトカ首相：
ロボット化、自動化、デジタル化を強化すべきである。

ピルニー財務大臣：
明後日の政府の会合にこの話を持っていく。

【私見】

会合の冒頭にて行われた表彰式だが、「今年の産業人」として表彰されたのは TOS VARNSDORF 社の Jan Rydl 氏だった。同社は 100 年以上前に設立された工作機械製造会社で、家族経営の会社である。同社はチェコ国内の資格保持労働者不足を機に、現在の製造会社が必要とする有用な人材を育てるべく、工業の専門技術教育を行うために、昨年高等学校を開設した。人材の育成や確保を目的としたこのような投資は、昨今のチェコの産業界の動きを大きく反映しているように思う。

今回の会合にはソボトカ首相をはじめ、ベロブラーデック副首相・キリスト教民主連合-チェコスロバキア人民党党首、ピルニー財務大臣、ハブリーチェック産業貿易大臣がスピーカーとして参加し、またムラーデク前産業貿易大臣、雇用者・経営者連盟ウィスネル会長、チェコ・モラヴィア労働組合連合ストシェドゥラ会長、チェコインベストクチェラ長官、フランス商工会フバタ事務局長等がゲストとして参加していた。会の進行は、経営者側（産業連盟会員）が質問や指摘、要求事項等を述べ、それに対しスピーカーらが回答する方法であった。経営者側の最も大きな関心事はやはり労働者不足問題で、これらに対して政治家らは、チェコ日本商工会のラウンドテーブルと同様に、当たり障りのない回答しかしていないように感じた。しかしそれでも、このような機会で直接重鎮な政治家らに訴え、問題や具体的な要求を表面化する事が産業連盟にとっての狙いであると感じた。

先述のように今回の会合に、チェコ・モラヴィア労働組合連合ストシェドゥラ会長も参加していたが、産業連盟のような経営者団体とは相反する組織である故、三者会議等ではかなり加熱した議論をし合ったり、過激に相手を批判し合ったりする中である。余談であるが、コンファレンス中に同氏の名前を出す際には、ペピークやペパ等の愛称で呼んでいるところが、非常に興味深かった。

いつも御対応頂いている産業連盟雇用部門長のヘイドゥコヴァ氏をお見かけしたのでご挨拶に伺ったところ、「チェコ日本商工会との協力は我々にとって意味のあるもので、今後も協力関係を保っていきたい。」とのお言葉を頂いた。今回のこの会合は毎年開催されているが、実際に産業連盟からご招待を受けたのは今年が初だった。昨年春から産業連盟と密に連絡を取りあうようになり、チェコ日本商工会との協力関係を築けた証であると感じ、今後も連携を取って情報共有を努める事の重要性を感じた。

（了）